

○雪椿とは

約 100 年前に新潟県阿賀町の麒麟山において（世界で初めて）発見され「雪椿」と命名された椿の新種で江戸時代以前から地元住民により種子油の採取や、観賞用として栽培や品種改良がおこなわれていました。

○雪椿の特徴

世界でも日本の積雪地帯（新潟県下越地方を中心とする日本海側の山間積雪地帯）のみに分布する雪椿は、その名前から寒さに強い印象を受けますが、実際は椿の中でも寒さや乾燥に弱い種類です。

雪椿が寒さや乾燥から身を守るために持っている特徴的な性質として次のようなものがあります。

- ・枝がしなやかで折れにくいことから、日本海側の湿った重い雪が枝葉に積もると、根元から柔らかく曲がって地面と雪の間に倒れて冬を越します。このことによって雪と地面の間の適度な環境（0℃以下にならず、湿度も保たれている環境）で寒さや乾燥から身を守り、雪解けとともに再び枝を起こして花を咲かせます。
- ・雪の重みを受けてしなやかに曲がる幹や枝には、雪解けしても起き上がらず地面（土）に着いたままのものがありますが、このとき土壌や水分の条件が良いと地面に着いた幹枝から直接土中に根が生えて、新たな根株として成長増殖します。

このように、「雪がたくさん積もる雪国の自然環境（雪に埋もれること）」をうまく利用して、冬を越し根株を増やすのが雪椿の大きな特徴です。



○雪椿の利用

雪椿の実から採れる「ツバキ油」は昔から灯りや食用に利用されてきたほか、女性の髪や肌につけると艶々潤いを保つ「化粧品」としても重宝されてきました。最近の研究では、美容や老化防止、心臓や血管の働きを助けるオレイン酸やビタミンEが、ツバキ油（特に雪椿油）に多く含まれていることが解りました。

阿賀町ではこの雪椿から採れる「雪椿オイル」を商品化する取り組みも始まったほか、新潟大学と共同開発した「雪椿石けん」「雪椿入浴剤」「雪椿うどん」なども特産品として販売され、原料である雪椿オイルが不足するほどの好評を得ています。



○雪椿の種類

原種

阿賀町の山林内には原種が群生し、鹿瀬角神雪椿園では2万数千株の原種が保護されています。



園芸種

原種が突然変異したものやヤブ椿などとの交配により品種改良されたものが園芸種ですが、町内の寺社や個人宅には種類も様々な雪椿園芸種の銘木古木が存在しています。園芸種の数是国内で200種*1以上、欧米を中心とした海外では日本の雪椿をもとにして数千もの園芸種*2が作られ愛好されています。

*1 「日出谷」「津川紋」「鹿瀬」「小松姫」など阿賀町の地名や人名に由来した有名品種も多い

*2 鹿瀬原産の「波多野」は戦後アメリカ椿学会によって持ち帰られて、アメリカ椿1500種以上の母体となった

「津川紋り」

「日出谷」



「小松姫」



「波多野」



○雪椿の育てかた

雪椿は雪国の花であり、雪の下で乾燥や寒さから身を守っています。そのため新潟県の山間部など雪の積もる場所では、戸外に植えてやるほうが雪椿には快適な成育環境となりますが、冬に乾燥する太平洋側の地域では「鉢植え」して育てるのがよいでしょう。

- 植える場所は日中(特に夏場)直射日光が当たらない場所、理想的には朝日が当たる半日陰が良いでしょう(ツバキよりも葉焼けしやすいため、落葉広葉樹の葉影になる場所など、真夏はやや遮光される方が良い。)
- 積雪地域において戸外に植える場合は、なるべく土中水分のある場所を選び、雪の重みがかかると地面に幹が伏せるように地面に対して幹を斜めに(45度程度)傾けて植えます。これは雪椿が持つ幹枝のしなやかで柔らかい性質を生かした植栽方法であり(阿賀町式植栽法)、耐雪支柱などの雪対策が不要になり毎年の管理も楽になります。
- 鉢植えの用土は、赤玉土・鹿沼土・日向土・桐生砂のうちの数種を混ぜたものにできればピートモスを加えた土を用います(アルカリ性の土壌を嫌う)。
- 植えた直後はたっぷりと水をやりましょう
- 毎日欠かさず水やりをしましょう(やり過ぎに注意)
- 剪定は開花後、3~4月(大きく切り詰める場合は2月~3月上旬が最適)。6月ごろに花芽ができるので、それ以降の剪定は樹形を整える程度にとどめましょう。
- 植え替えは梅雨時が最適で失敗が少ないですが、3~4月、9~10月(寒冷地では8~9月)も可能です。
- 増やしたい場合は、6~8月に挿し木で殖やします(全体をポリ袋などで覆う「密閉挿し」なら、冬季でも可能。この場合、6月ごろに少しずつ外気に慣らしながらポリ袋を取り除く)。3~8月の取り木も可。挿し木・取り木とも、ツバキよりも発根しやすい。
- ツバキより低温や冬季の乾燥した空気に弱いため、冬季にごく乾燥する関東地方では日中日当たりの良い場所に置くときは霧吹きで水をかけてやる、気温が低下する夜間早朝は戸外に置かず、加湿器のある部屋か、お風呂場などに移すのが良いでしょう(自生地では雪に埋もれ越冬するため、温度と湿度が保たれる)



守ろう！育てよう！活かそう！ **阿賀の雪椿**